

脳神経外科学各論

【Individuals in Neurosurgery】

担当責任者 教授（脳神経外科学） 山本 淳考

ねらい

神経系の正常構造と機能を理解し、脳・神経系の特性を認識し、脳神経外科学にはどのような病態、疾患があるかを習得する。脳神経疾患の診断や病態の理解には神経解剖、神経生理、神経病理、神経化学・薬理学などの知識が不可欠であり、これらの特性を知ることにより脳・脊髄の局在機能や神経症候の理解が深まる。

4年次は主として各論の講義をするので、脳・神経疾患の原因、病態、症候と診断・治療を説明できるように学ぶ。

学修目標

1. 脳・脊髄と頭蓋・脊椎の解剖を復習し、脳血管の走行・支配領域、及び髄液腔との関係を理解し、特に大脳基底核、脳幹、脊髄部では横断面の解剖を図示できる。(Ⅱ-1)
2. 脳・脊髄の局在機能を理解し、主要神経症候と神経解剖学的病変部位を説明できる。(Ⅱ-5)
3. 基本的な神経学的診察法を述べるができる。(Ⅱ-6)
4. 主要な脳・神経疾患の病因、病態生理、鑑別すべき疾患を列挙することができる。(Ⅱ-1, Ⅱ-5)
5. 主要な脳・神経疾患に対する検査の適応・禁忌と、その意義を述べるができる。(Ⅱ-6, Ⅱ-9)
6. 主要な脳・神経疾患に対する治療の基本について説明できる。(Ⅱ-6)
7. 外科治療の対象となる疾患(腫瘍、血管障害、外傷、先天奇形、感染症、機能的疾患)の病態に基底核、脳幹、脊髄部がどのように関与しているのかを各々の横断面の解剖で図示できる。(Ⅱ-1, Ⅱ-5)

事前事後学習の方法

1. シラバスに記載されている授業項目について、事前に参考書・指定教科書等を利用して予習をすること。
2. 授業中に配布された講義テキスト等を熟読して講義内容を復習すること。

成績評価方法・基準

1. 下記のごとく講義終了時に、講義内容の理解度チェックのための小テストを行う。
2. 100点満点換算で、A、B、C、D、Fの5段階評価とする。

○ 教科書

児玉南海雄・峯浦一喜監修 「標準脳神経外科」(医学書院)

○ 参考書

太田富雄・松谷雅生・野崎和彦編 「脳神経外科学」(金芳堂)

田崎義昭・斎藤佳雄著 「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂)

日本脳卒中学会編 「脳卒中治療ガイドライン2021」(協和企画)

日本脳腫瘍学会編 「脳腫瘍診療ガイドライン 2019年版」(金原出版株式会社)

松谷雅生・堀智勝・浅野孝雄編集 「脳神経外科手術のための解剖学」(メディカルビュー社)

後藤文男・天野隆弘著 「臨床のための神経機能解剖学」(中外医学社)

宜保浩彦著 「臨床のための脳局所解剖学」(中外医学社)

D.N. Louis 「WHO Classification of Tumours of the Central Nervous System」(WHO)

A.L. Rhoton, Jr 「Rhoton's Cranial Anatomy & Surgical Approaches」(Oxford University Press, Inc)

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目				担当者
				第1層	第2層	第3層	第4層	
R8.7.15	水	7・8	出血性脳血管障害の診断と治療 小テスト	PS	01	04	13	黒川 暢 (脳卒中血管内科学)
7.29	水	7・8	小児脳神経外科	PS	02	12	04	宮川 正(学外)
9.2	水	5・6	脳腫瘍の診断と治療 小テスト	PS	03	04	10	中野 良昭
9.10	木	7・8	頭部外傷 小テスト	PS	03	05	04	齋藤 健
9.17	木	7・8	機能的脳神経外科 小テスト	PS	02	03	04	齋藤 健
9.24	木	7・8	虚血性脳血管障害の診断と治療 小テスト	PS	01	04	13	田中 優子 (脳卒中血管内科学)